

平成 26 年 9 月 3 日

報道関係 各位 【プレスリリース】



一般社団法人日本分析機器工業会 JAIMA

一般社団法人日本科学機器協会 JSIA

JASIS 2014 開催

☆本日は残暑厳しき折、また、ご多忙中にも関わらずご来場いただき御礼申し上げます。
ご見学の上、ぜひ、出展各社へのご取材を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人日本分析機器工業会（〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-12-3 会長 服部重彦 株式会社島津製作所代表取締役会長）と一般社団法人日本科学機器協会（〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 3-8-5 会長 矢澤 英人 株式会社ダルトン代表取締役社長）主催の JASIS 2014 は、9 月 3 日（水）から 9 月 5 日（金）まで幕張メッセの 4・5・6・7・8 の 4 ホール半を使用し、1,399 小間、467 社・機関の展示規模で開催します。これは小間数、出展社数としては過去最高の規模となります。来場者は 3 万人を見込んでいます。

○本展の大きな特長として、機器展示に加えて数・種類ともに豊富なコンファレンス・セミナー類が開催される点があげられます。隣接するホテルで出展社が行う新技術説明会も、過去最高の 356 テーマを数えます。昨年に引き続きグローバル化対応として、日・英同時通訳のテーマも継続して実施いたします。

<開催概要(規模)>

2014 年 9 月 3 日(水)～5 日(金)3 日間、幕張メッセを中心に開催いたします。展示会場は、国際展示場 4～8 ホールの 4 ホール半を使用して開催します。コンファレンス、セミナーや新技術説明会は、幕張メッセ国際会議場、ホテルニューオータニ幕張、アパホテル&リゾート<東京ベイ幕張>にて開催します。出展規模は、467 社 1,399 小間と過去最高です。海外からは、米国、英国、中国、韓国をはじめとして、11 ヶ国からの出展申込をいただいております。

併催の「新技術説明会」は昨年の 343 テーマを上回り、過去最高の 356 テーマの申込みをいただいております。

JASIS2014 のキャッチフレーズは「未来発見。」(Discover the Future.) 2012 年から継

続しています。JASIS は分析機器・科学機器におけるアジア最大級の展示会として、「イノベーションを生み出し、将来のビジネス発展につながる発見の場となる」ことを目指し、以下のような企画を準備しております。

＜【特別企画】”先端診断 “イノベーションゾーン：分析市場から先端診断市場へのビジネス展開を加速する特別企画＞

今回の展示会の特別企画として、「”先端診断 “イノベーションゾーン」を展示会場内に新設します。同企画は、分析市場から先端診断市場へのビジネス展開を考える特別企画として、内閣官房、海外からなど多方面の有識者の方々による 17 の基調講演をはじめ、30 社による企業展示と主催者特別展示、22 テーマのプレゼンテーション、商談コーナーから構成されます。これを機会に日本発の新しい分析テクニック及びアプリケーションの創生、並びに国内外への普及に向けた「想定される問題点や解決策を討議できる場」として、積極的な交流の場となるよう期待しています。JASIS コンファレンスにおきましても、第一線でご活躍の海外招待講演者をお招きします。

＜サイエンスセミナー＞(9月4日(木)13時～ (ホテルニューオータニ幕張 2F 麗の間)

「脳」をテーマに東京大学大学院の池谷 裕二先生にご講演いただきます。

・「脳のからくり -驚くべき働きを、最先端の脳科学で解き明かす。-」

東京大学・大学院薬学研究科教授 池谷 裕二先生

<http://www.jasis.jp/2014/seminar/science.html>

＜日本薬局方セミナー＞(9月5日(金)14時～ (幕張メッセ国際会議場 2F)

「日本薬局方の第二追補から 17 改正に向けた動き」をテーマにご講演いただきます。

・「理化学試験法委員会及び溶出試験法関連の話題」

国立医薬品食品衛生研究所 客員研究員 四方田 千佳子先生

・「バイオ医薬品の品質評価に関する最新動向」

国立医薬品食品衛生研究所 生物薬品部 第二室長 石井 明子先生

・「レーザー光を用いた粒子径分布の測定について」

武蔵野大学薬学部客員教授 SSCI 研究所代表 芦澤 一英先生

<http://www.jasis.jp/2014/seminar/pharmacopoeia.html>

＜JASIS コンファレンス・セミナー＞

展示会併催の JASIS コンファレンスは、昨年を上回る 28 団体 51 セッション(昨年 24 団体 48 セッション)の過去最大の規模で開催します。会期は展示会より 1 日早くスタートし、9 月 2 日から 4 日間開催されます。国際コンファレンスセッションとして、U.S.シンポジウム、英国王立化学会(RSC)東京国際コンファレンス、シノフォーラム、韓国フォーラム、ア

ジアテクニカルフォーラムなど、充実したプログラムを展開します。また、毎年好評の JAIMA セミナー(全 11 講座)、JAIMA フォーラム「現代社会を支える化学とその未来」、JAIMA シンポジウム「分析産業とアジア市場」、日科協セミナーなど、盛りだくさんの内容です。

開催概要 : <http://www.jasis.jp/2014/seminar/jasis.html>

プログラム一覧 : <http://www.jasis.jp/2014/seminar/jasis-program.html>

(※各タイトルは下記参照。また、詳細等の更新情報は随時ホームページに掲載します。)

<第 3 回分析機器・科学機器遺産認定>

分析機器・科学機器遺産認定は昨年が続いて 3 回目の開催です。昨年に引き続き、一般からも応募いただきました。9 月 3 日初日に認定証授与式を開催。会場内に特設コーナーを設置し、認定遺産(実機、パネルなど)を展示いたします。

<“マイナビ”とのコラボで学生の業界研究をサポート>

“マイナビ”とのコラボレーションにより、理系学生向けに展示会見学をサポートするラウンジを新設します。学生の皆さんに分析機器・科学機器業界に興味を持っていただくための業界研究企画です。(展示会場・8 ホールラウンジ) (協力：マイナビ)

<科学実験ショー>

科学実験ショー ～音の波形を科学する～ を 9 月 5 日(金)にイベントスクエアで実施する予定です。波のデータから情報を得る原理が、光や電波を使った物質の分析方法にも通じるということを、実験を交えて学習する場をご提供します。(協力：科学技術館)

<来場者利便ほか>

・「科学・分析機器総覧 2014」(印刷版、CD-ROM 版)、「分析機器の手引き」などを会場内特設コーナーで無料配布します(数量限定)。

・近年利用者が急増しているスマートフォン等のモバイルを積極的に活用し、JASIS 展示会専用のアプリを開発いたしました。展示会見学の際のマップ機能やスケジュール機能など来場者にとってたいへん便利なツールとなっております。

・会期中、「幕張本郷駅(海浜幕張駅経由)と会場を結ぶ無料シャトルバス」と「つくばからの無料バス」を運行しています。

【9/3 初日のおもな行事】

- 9月3日（水）11時より記者会見（ホテルニューオータニ幕張2階 すみれの間）
- 9月3日（水）16時00分より「分析機器・科学機器遺産」認定16件の認定書授与式
（展示会場4ホール奥、特設認定書授与式式場）
- 9月3日（水）17時30分より「祝賀パーティー」（ホテルニューオータニ幕張2階 鶴の間）

【プレスルームのご案内】

- 展示会場内1階7ホール北側に報道関係各位のプレスルームをご用意させていただきました。また、ワイヤレス・インターネット、部屋内冷蔵庫には冷たいお飲み物を用意しました。ご自由にご利用ください。

【現地事務局のご案内】

- 主催者として、ご来場者にも、出展企業にも、共にご満足いただける運営に努力してまいります。展示会場内1階6ホール北側に主催者現地事務局を設けています。ご不明点、お問い合わせなどございましたら、お立ち寄りください。

一般社団法人日本分析機器工業会内 JASIS 事務局
事務局長 濱崎（はまざき）/小川（おがわ）

新機軸「“先端診断”イノベーション」の説明

歴史を振り返ると、分析とは「これは何からできているのだろう」「これはどんな化合物を含んでいるのだろう」という疑問に答えるため、化学と物理を駆使して「中身の成分や仕組みを知る科学」を創造することから始まったと言えます。最初は化学の進歩から試薬が生まれ、光学、精密工学、機械工学などから分析機器が生まれ、分離技術としてのクロマトグラフィーの発明以降は多くのクロマト機器の発展が産業に大きく貢献してきました。これらの化学分析市場は、市販された装置及び試薬の応用範囲を、ユーザーである研究者自身が開発・拡大することによって発展してきたと考えられます。

しかしながら「生命を測る」発想として進化したバイオサイエンス領域では、「DNA や蛋白質の仕組みを知りたい」という願いの下、世の中に存在するあらゆる分析技術からゲノム解析やその他生命メカニズムを計測できるものを組み合わせてツールを組み立てること、すなわち装置や試薬を駆使した手法論開発に専念したことによって成果を上げてきたと考えられます。つまり、それまでの分析機器市場拡大のメカニズムとは異なるスキームにより市場成長を果たしてきたこととなります。

ヒトゲノム解読終了が宣言された 2001 年以降、さらなる機器進歩とデータ蓄積の時代に入ってから 10 年以上の年月が過ぎました。そして現在、IT 革命による市場インフラ改革と共に、蓄積されたデータを利用・応用し実用化する、新しい時代がスタートしたと言えましょう。従って、多くの製造業に保有される技術が、新しい技術融合により近未来のヘルスケアイノベーション時代における製品に反映されなければならない時代が始まると想像されます。

現在進行中の「医療イノベーション」には、創薬ネットワークや中核病院の整備、医療機器の開発支援、個別化医療、遠隔地医療など多岐の内容が含まれています。既に分析機器は創薬分野を始めとした医療の分野でも幅広く利用されており、これらの技術進化は医療における「診断」の領域に大きな貢献と変革をもたらしています。

20 世紀後半における新たな分析機器の進歩は、遺伝子解析を可能にし、蛋白質科学を著しく進歩させました。さらに 21 世紀に入ると、遺伝子解析が高速・廉価に行えるようになり、また遺伝子に書かれたコードと蛋白質機能、さらには代謝系との関係が明らかになり、生命体機能を全体から解析しようという、システムバイオロジーという言葉に代表される新たな方法論が試されはじめています。

分析機器の感度向上は、今まで測定が困難とされてきた生体物質の検出や定量を可能にし、また同時に膨大な測定データを処理できる解析技術も IT の進化により開発されています。それらにより、例えば、新聞やメディアでも報道されたように、唾液、呼気から癌を見つける方法や、また機器の高感度化による採取試料の微量化を利用した、患者に負担の掛らない試料採取方法なども開発されています。これらの革新的技術が、治療道具の進歩

に併せて、治療を適切に判断するための診断法として、治療法とセットで開発される仕組みが重要になります。

また、医薬品開発はテーラーメイド化による個別投薬の方向に向いており、これらの医薬品はコンパニオン医薬品と呼ばれ、その使用に適合するかの診断法をコンパニオン診断と呼びます。従って新薬開発においては、その過程においてコンパニオン診断開発を並行して進行させる必要性があります。

我々は、このような新しい診断技術を「先端診断」と呼んでおります。分析機器が役立つ医療イノベーションを取り上げるべく、JASIS2013では「メディカルイノベーションゾーン」を新たに始動させましたが、さらに集約した目標を掲げて JASIS2014では『先端診断イノベーション』に改名し、将来のヘルスケアイノベーションに向けての第一歩を確実なものにする決意で臨むことといたしました。

先端診断イノベーションを推進する大きな目的は、多くの国内産業に向けて近未来における新しいライフサイエンス市場に参入するための扉を開け、可能性を引き出すためのプラットフォームになることにあると考えるべきです。未病や健康維持を確実にする科学には、これらの先端診断から生まれる技術に共通する領域が多々あります。食品開発、機能性食品、サプリメント、スポーツ医学、テーラーメイド健康診断から環境バイオ、畜産バイオ、海洋バイオ、農業バイオに至る幅広いライフサイエンス分野でのイノベーションにおいて、先端分析技術産業は欠かせない重要な産業として成長できる可能性が充分あると考えられます。近未来における多くのヘルスケア領域で活躍する製品に、「メイドインジャパン」製品が搭載され、日本のこの産業が“Japan is No.1”と呼ばれ復活できる日を目指して、その第一歩を踏み出す企画が『JASIS2014 先端診断イノベーションゾーン企画』と想定しています。

ある基調講演は、近未来先端診断市場で特に注目度の高いテーマを日毎に設定し、世界動向・日本の戦略等について、先端研究の最前線で活躍されている多くの著名な先生方にお話しいただくものとして企画いたしました。

本ゾーンは昨年の2倍のスケールで実施します。(今年：約900㎡ 昨年：440㎡)「展示ゾーン」には、30社を超える企業・団体の展示に加え、主催者企画展示コーナーでは「先端診断」をわかり易く解説するブースや、「日本発」の先端診断をテーマとした、科学技術振興機構、産業技術総合研究所、バイオチップコンソーシアムの最新研究を紹介する企画展示も行います。また、出展企業からの最新情報が得られるプレゼンテーションも会場内で実施するなど、豊富な企画で開催いたします。

基調講演：3日間で17テーマ：

初日（9/3）：先端診断の世界の動向と日本の戦略

2日目（9/4）：クリニカル分野における各種質量分析計による先端診断

3日目（9/5）：遺伝子診断の現状と将来展望

基調講演者（一部抜粋）

・内閣官房 健康・医療戦略室

長谷弘道 氏

・AIST（産業技術総合研究所）

夏目 徹 氏

・JST（科学技術振興機構）FIRST 研究者

田中耕一 氏（株式会社島津製作所）

・JST（科学技術振興機構）FIRST 研究者

川合知二 氏（大阪大学）

・Lund 大学（スウェーデン）

György Marko-Varga 氏

先端診断イノベーションゾーン基調講演プログラム

先端診断の世界動向と日本の戦略	9月3日(水)	AM	11:30~12:10	ライフサイエンス分野におけるシンガポールA*STARと神奈川県・GCCの協力関係構築による取組」(仮)	Dr. Tan Sze Wee (A*STAR バイオメディカルリサーチ協議会副理事長)
			12:10~12:50	Making Medicine More Precise: Applications of Molecular Diagnostics	Paul Billings(ALDA)
			12:50~13:30	"The Value of Large Scale Biobanking in Clinical Healthcare"	György Marko-Varga (Clinical Protein Science & Imaging Group, BioMedical Center, University of Lund, Lund, Sweden)
	PM	14:00~14:40	MS-based臨床プロテオミクス・バイオマーカー研究の世界の現状と課題	西村 俊秀(東京医科大学第一外科学)	
		15:00~15:40	日米双方向から見た製薬会社におけるバイオマーカー研究と診断薬開発の現状	小田 吉哉(エーザイ㈱)	
		16:00~16:30	(仮)新たな医療分野の研究開発体制について	長谷 弘道(内閣官房 健康・医療戦略室)	
クリニカル分野における各種質量分析計による先端診断	9月4日(木)	AM	11:00~11:40	ドラッグデリバリー研究における質量顕微鏡の応用	松村 保広((独)国立がん研究センター東病院)
			12:00~12:40	メタボロミクスによるがん診断法の開発	吉田 優(神戸大学大学院医学研究科 准教授)
	PM	13:00~13:40	最先端質量分析システムの現状と将来性	田中 耕一(株式会社島津製作所 シニアフェロー)	
		14:00~14:40	オンサイトマススペクトロメトリーが切り拓く新しい医療診断	豊田 岐聡(大阪大学大学院理学研究科)	
		15:00~15:40	汎用ヒト型ロボット「まほろ」によるライフサイエンス革命	夏目 徹((独)産業技術総合研究所)	
遺伝子診断の現状と将来展望	9月5日(金)	AM	11:00~11:40	1分子解析技術を基盤とした革新ナノバイオデバイスの研究開発	川合 知二(大阪大学 産業科学研究所 バイオテクノロジー研究分野)
			12:00~12:40	1分子測定技術が切り開く新たな市場と産業	本蔵 俊彦(クオンタムバイオシステムズ㈱)
	PM	JMACとしての国際規格取得から今後の産業化へ向けて			
		13:00~13:30	遺伝子診断の実用化に向けた標準活動	山本 伸子(特定非営利活動法人 バイオチップコンソーシアム)	
		13:30~14:00	バイオチップの新技术と実用化例	船岡 創平(住友ベークライト(株))	
		14:00~14:30	分子診断のプレアナリティカル段階の標準化活動	岡野 和広((株)キアゲン)	
14:30~15:00	未病社会のための診断技術(RNA check)	的場 亮((株)DNAチップ研究所)			

先端診断イノベーションゾーンには

- ①基調講演 ②ポスター発表 ③展示
 - ④参加企業によるプレゼンテーション
 - ⑤商談コーナー ⑥特別企画展示
- の各コーナーが設置されます。



先端診断イノベーションゾーン概略デザイン



先端診断イノベーションゾーンの狙いと今後の展望

先端診断



分析技術と多様な科学技術の融合により創出される新たな臨床診断やヘルスケアマネージメントを確立するための研究領域

先端診断開発における分析機器およびツール技術

遺伝子解析技術
ゲノミクス

蛋白質解析技術
プロテオミクス

代謝計測技術
メタボロミクス



IT &
バイオインフォマティクス

先端診断イノベーションの目的



多くの国内産業が新しいライフサイエンス市場に参入できる扉を開けるためのプラットフォーム

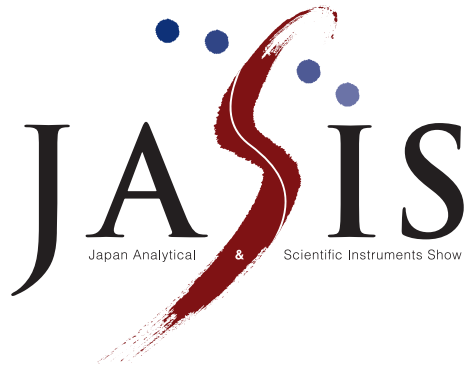
メディカル

- 遺伝子診断
- コンパニオン診断
- 臨床プロテオミクス
- メタボロミクス
- POCT (自己診断) など

ヘルスケア

- 機能性食品
- サプリメント
- スポーツ医学
- テーラーメイド健康診断 (POCT)
- 農・水・畜バイオ など

近未来のヘルスケア領域で活躍する「Japan as No.1」製品を目指す



平成 26 年 8 月 12 日

プレスリリース
報道関係者各位



一般社団法人日本分析機器工業会 JAIMA

一般社団法人日本科学機器協会 JSIA

第 3 回「分析機器・科学機器遺産」認定事業において 16 件認定

一般社団法人日本分析機器工業会（所在地：〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-12-3、会長：服部 重彦/株式会社島津製作所 代表取締役会長）と一般社団法人日本科学機器協会（所在地：〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 3-8-5、会長：矢澤 英人/株式会社ダルトン代表取締役社長）は、日本国民の生活・経済・教育・文化に貢献した貴重な分析技術/分析機器や科学機器を、文化的遺産として後世に伝えることを目的に、一昨年「分析機器・科学機器遺産」の認定事業を始めました。今回、第 3 回目として、16 件（第 1 回 20 件、第 2 回 15 件）を認定しました。

産・官・学の有識者 6 名(下記)の方々により、厳正に審議され、選定されたものです。いずれも当時、世界に誇る機器・技術だったものであり、次世代に継承されるべき「科学のちから」とされています。前回からは、一般からの応募も受け付け、1 施設もしくは 1 個人から 2 件までとし、24 件（19 者）の応募がありました。

9 月 3 日(水)から幕張メッセで開催する展示会 JASIS 2014 に合わせて、認定証授与式（JASIS2014 展示会場内特設会場にて）を行うとともに、同展示会の会期中、展示会場内で認定品の展示を行う予定です。(URL: <http://www.jasis.jp/2014/>)

【選定委員会】

委員長： 二瓶 好正氏 (東京大学名誉教授)
委員： 石井 格氏 (国立科学博物館名誉研究員)
石谷 炯氏 (公益財団法人神奈川科学技術アカデミー名誉顧問)
久保田 正明氏 (産業技術総合研究所客員研究員)
古谷 圭一氏 (東京理科大学名誉教授)
山崎 弘郎氏 (東京大学名誉教授)

【認定基準】 (1)分析計測技術・機器ならびに科学技術・機器の発展史上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つもので、次の基準を満たすもの

- ・対象とする科学技術及び機器の発展の重要な側面及び段階を示すもの
- ・国際的に見て日本の科学技術及び機器発展の独自性を示すもの
- ・新たな科学技術及び機器分野の創造に寄与したもの

(2)国民生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えたもので、次の基準を満たすもの

- ・国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な役割を果たしたもの
- ・日本経済の発展と国際的地位の向上に一時代を画するような顕著な貢献のあったもの
- ・社会、文化と科学技術及び機器の関わりにおいて重要な事象を示すもの

【認定対象の分類】 (1)保存、収集された機器

(2)歴史的意義のある技術や機器の関連文書並びに試料類

■ 分析機器・科学機器遺産認定品 名称と申請者

認定 No. 36

名称：光干渉式メタンガス検定器

申請者：理研計器株式会社

認定 No. 37

名称：ベックマン pHメーター

申請者：ベックマン・コールター株式会社

認定 No. 38

名称：第一号磁界型電子顕微鏡および関連資料

申請者：大阪大学総合学術博物館

認定 No. 39

名称：電子回折装置

申請者：名古屋大学博物館

認定 No. 40

名称：電子顕微鏡 HU-2 型

申請者：名古屋大学博物館

認定 No. 41

名称：pH計 HM-5(A)型

申請者：東亜ディーケーケー株式会社

認定 No. 42

名称：ゲーデ型油回転真空ポンプ

申請者：佐藤真空株式会社

認定 No. 43

名称： デジタル粉じん計 P-1 型

申請者： 柴田科学株式会社

認定 No. 44

名称： 自動血球計数装置 CC-1001

申請者： シスメックス株式会社

認定 No. 45

名称： HU-11B 形 日立電子顕微鏡

申請者： 東北大学 多元物質科学研究所

認定 No. 46

名称： 走査型電子顕微鏡 JSM-2

申請者： 日本電子株式会社

認定 No. 47

名称： IRA-1 型 回折格子赤外分光光度計

申請者： 日本分光株式会社

認定 No. 48

名称： クロマトパック C-R1A

申請者： 株式会社島津製作所

認定 No. 49

名称： むつ鉄を使用した低バックグラウンド大型遮蔽体による放射化分析用γ線測定装置

申請者： 東京都市大学

認定 No. 50

名称： 中型分光器 HR320

申請者： 株式会社堀場製作所

認定 No. 51

名称： ガスクロマトグラフ質量分析計 GCMS-QP1000

申請者： 株式会社島津製作所

【お問い合わせ先】

一般社団法人日本分析機器工業会 事務局 濱崎(はまざき) 電話：03-3292-0642

一般社団法人日本科学機器協会 事務局 岡田(おかだ) 電話：03-3661-5131

※今までの遺産認定に関する詳細結果は以下のホームページをご参照ください。

<http://www.jaima.or.jp/jp/heritage/index.html>